

2026年度授業計画 (シラバス)

1年生

2026年4月1日

お茶の水はりきゅう専門学校

教育課程及び授業単位数・授業時数

1 単位時間 45 分

はり師きゅう師学科 (昼間・夜間)												
教育内容	科目名	必修/選択	授業形式	1年		2年		3年		合計		
				単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	単位数	時間数	
基礎分野	科学的思考の基盤及び人間と生活	生物学	必修	講義	2	40					2	40
		心理学Ⅰ	必修	講義			2	40			2	40
		心理学Ⅱ	必修	講義	2	40					2	40
		漢方薬概論	必修	講義	2	40					2	40
		ヘルスプロモーション概論Ⅰ	必修	講義			2	40			2	40
		ヘルスプロモーション概論Ⅱ	必修	講義			2	40			2	40
		栄養学	必修	講義	2	40					2	40
規則14単位	小計			8	160	6	120	0	0	14	280	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	必修	講義	4	80					4	80
		解剖学Ⅱ	必修	講義	4	80					4	80
		生理学Ⅰ	必修	講義	4	80					4	80
		生理学Ⅱ	必修	講義	4	80					4	80
		規則12単位	小計			16	320	0	0	0	0	16
	疾病の成り立ち、その予防及び回復の促進	病理学概論	必修	講義			3	60			3	60
		臨床医学総論	必修	講義			4	80			4	80
		臨床医学各論Ⅰ	必修	講義			4	80			4	80
		臨床医学各論Ⅱ	必修	講義			4	80			4	80
		リハビリテーション医学	必修	講義					3	60	3	60
		衛生学・公衆衛生学	必修	講義			2	40			2	40
	規則12単位	小計			0	0	17	340	3	60	20	400
	保健医療福祉とはり及びきゅうの理念	医療概論	必修	講義					1	20	1	20
社会保障・医療倫理		必修	講義					1	20	1	20	
関係法規		必修	講義			1	20			1	20	
規則3単位	小計			0	0	1	20	2	40	3	60	
専門分野	基礎はり学 基礎きゅう学	東洋医学概論Ⅰ	必修	講義	4	80					4	80
		経絡経穴概論	必修	講義	4	80					4	80
		鍼灸理論Ⅰ	必修	講義	2	40					2	40
		東洋医学概論Ⅱ	必修	講義			4	80			4	80
	規則9単位	小計			10	200	4	80	0	0	14	280
	臨床はり学 臨床きゅう学	東洋医学臨床論Ⅰ	必修	講義					2	40	2	40
		東洋医学臨床論Ⅱ	必修	講義					2	40	2	40
		東洋医学臨床論Ⅲ	必修	講義					2	40	2	40
		鍼灸理論Ⅱ	必修	講義					2	40	2	40
		生体観察	必修	講義			2	40			2	40
		あはきの適応判断	必修	講義			2	40			2	40
		病態生理学	必修	講義			2	40			2	40
	規則13単位	小計			0	0	6	120	8	160	14	280
	社会はり学・社会きゅう学	社会はりきゅう学	必修	講義					2	40	2	40
	規則2単位	小計			0	0	0	0	2	40	2	40
	実習	基礎はりきゅう実技Ⅰ	必修	実習	2	80					2	80
		基礎はりきゅう実技Ⅱ	必修	実習	2	80					2	80
		基礎はりきゅう実技Ⅲ	必修	実習			1	40			1	40
		臨床はりきゅう実技Ⅰ	必修	実習			1	40			1	40
臨床はりきゅう実技Ⅱ		必修	実習			1	40			1	40	
臨床はりきゅう実技Ⅲ		必修	実習			1	40			1	40	
臨床はりきゅう実技Ⅳ		必修	実習			1	40			1	40	
臨床はりきゅう実技Ⅴ		必修	実習			1	40			1	40	
臨床はりきゅう実技Ⅵ		必修	実習					2	80	2	80	
臨床はりきゅう実技Ⅶ		必修	実習					1	40	1	40	
臨床はりきゅう実技Ⅷ		必修	実習	1	40					1	40	
臨床はりきゅう実技Ⅸ	必修	実習					1	40	1	40		
規則15単位	小計			5	200	6	240	4	160	15	600	
臨床実習 規則4単位	臨床実習	必修	臨床実習					4	180	4	180	
規則19単位	小計			5	200	6	240	8	340	19	780	
総合領域	総合領域Ⅰ	必修	講義					2	40	2	40	
	総合領域Ⅱ	必修	講義					2	40	2	40	
	総合領域Ⅲ	必修	講義					2	40	2	40	
	総合領域Ⅳ	必修	講義					2	40	2	40	
	総合領域Ⅴ	必修	講義					2	40	2	40	
	総合領域Ⅵ	必修	講義					1	20	1	20	
規則10単位	小計			0	0	0	0	11	220	11	220	
合計	必修科目授業単位数				39		40		34		113	
	選択科目授業単位数				0		0		0		0	
	卒業に必要な総授業単位数				39		40		34		113	
	卒業に必要な総授業時数					880		920		860	2,660	

目次

生物学	1
心理学Ⅱ	3
漢方薬概論	5
栄養学	7
解剖学Ⅰ	9
解剖学Ⅱ	11
生理学Ⅰ	14
生理学Ⅱ	16
東洋医学概論Ⅰ	18
経絡経穴概論	20
鍼灸理論Ⅰ	22
基礎はりきゅう実技Ⅰ（鍼）	23
基礎はりきゅう実技Ⅱ（灸）	25
臨床はりきゅう実技Ⅷ（オムニバス）	27

【一般目標 (GIO)】 生命科学の視点から生命活動と日常生活との関係を理解し、人体の機能・栄養・遺伝子・免疫などの基礎的事項を体系的に修得するとともに、科学的根拠に基づいて説明できる力を養う。

【授業概要】 我々が生きるために必要な代謝・エネルギー・栄養素について理解するとともに、生命情報と構造、生・老・病・死に関わる生命科学の基礎的内容を体系的に学ぶ。教科書の内容に沿って進めます。

【授業計画】 前期

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	ヒトの身体とエネルギーの関係	口から摂取したデンプンが腸から吸収されるまでの過程を説明できる。 ATPがエネルギーを蓄えているしくみを説明できる。 体内でのエネルギーの使い方について説明できる。
2	糖の種類と性質	単糖類のグルコース、フルクトース、ガラクトースの特徴を説明できる。 二糖類がどのように分解できるか説明できる。
3	糖からエネルギーを得る仕組み	解糖系について説明できる。 TCA回路について説明できる 好氣的、嫌氣的条件下でのATP生成の違いを説明できる。
4	脂質の構造と性質	脂質と脂肪酸の違いを説明できる。 脂肪酸の特徴について説明できる。 魚のあぶらがヒトの体によい理由を説明できる。 トリアシルグリセロール以外の脂質について説明できる。 コレステロールがヒトにとって必要である理由を説明できる。
5	脂質の輸送と代謝	リポタンパク質の名前と特徴、脂質運搬での役割を説明できる。 脂肪酸のβ酸化について説明できる。 脂肪酸の分解と合成の類似点と相違点を説明できる。 脂肪の燃焼には有酸素運動が効果的であることを代謝の観点から説明できる。
6	ビタミンとミネラルのはたらき	13種のビタミンを脂溶性と水溶性に分類できる。 主要なビタミンのはたらきを説明できる。 体内における主要なミネラルの働きを説明できる。
7	細胞の構造と機能	真核細胞が持つ細胞小器官の名称とそのはたらきを説明できる。 真核細胞と原核細胞の違いについて説明できる。
8	DNAの構造とはたらき	DNAとRNAの構造上の違いを説明できる。 DNAの複製機構について説明できる。 セントラルドグマとは何か説明できる。
9	DNAからタンパク質へ	転写因子のはたらきについて説明できる。 転写の開始からおわりまでの反応の仕組みを説明できる。 RNAのプロセッシングについて説明できる。 リボソームがmRNAの塩基情報をアミノ酸情報に変換するしくみを説明できる。
10	タンパク質のはたらき	小胞体上のリボソームで合成されたタンパク質がたどる過程について説明できる。 細胞膜に存在するタンパク質の種類とはたらきを説明できる。

		細胞骨格をつくるタンパク質の名前とはたらきを説明できる。
11	細胞内外の情報伝達	G タンパク質共役型受容体とキナーゼ型受容体の構造と機能について説明できる。 セリン・トレオニン型キナーゼについて説明できる。 静止膜電位と活動電位が生じるしくみについて説明できる。 細胞内での Ca^{2+} のはたらきについて説明できる。
12	細胞分裂のしくみと制御	真核細胞の細胞周期について説明できる。 体細胞分裂の過程を説明できる。 減数分裂の過程について説明できる。
13	発生と分化	発生初期における体細胞分裂の特徴を説明できる。 外胚葉からつくられる組織や器官について答えられる。 シュペーマンの交換移植実験について説明できる。
14	細胞のストレス応答機構	紫外線による DNA の損傷について説明できる。 活性酸素種について説明できる DNA 損傷の除去修復過程について説明できる。 抗酸化作用について説明できる。
15	免疫システムのしくみ	自然免疫ではたらく食細胞について説明できる。 獲得免疫における細胞性免疫と液性免疫の違いについて説明できる。 免疫システムが過去の異物を記憶するしくみについて説明できる。
16	ES 細胞と iPS 細胞	ES 細胞のつくり方を説明できる。 ES 細胞を分化誘導する方法について説明できる。 ヒト ES 細胞を作成する際の問題点について説明できる。
17	再生医療の現在と未来	幹細胞と TA 細胞との違いを説明できる。 骨髄に含まれる組織幹細胞について説明できる。 組織幹細胞と多機能幹細胞について、再生医療における利点と問題点について説明できる。
18	アポトーシスと老化	テロメアについて説明できる。 DNA の損傷がアポトーシスを引き起こすしくみを説明できる。
19	遺伝子改変と私達の生活	制限酵素について説明できる。 ゲノム編集技術について説明できる。 遺伝子組換え作物について説明できる
20	定期試験	課題レポート試験

【方略】 教員の作成する動画教材を指定の時間にオンラインで視聴する。

【評価方法と基準】 各回に実施する小テストやレポートにて成績評価を行う。

【学生の質問への対応】 メールで受け付ける：t.nakajima@nichiyaku.ac.jp

【教科書】 「大学で学ぶ 身近な生物学 第2版」

著者：吉村成弘 出版社：羊土社 ISBN 978-4-7581-2183-5

【参考書】 特に指定しない。

心理学Ⅱ

[はり師きゅう師学科 昼夜] 1年生 (後期) 2単位 講義

非常勤講師 中山 麻子

【一般目標 (GIO)】 近年は心の時代であり、人間理解をする上で心理学は欠かせない学問となった。本講義では心理学の概要と、この領域を学ぶ意義について紹介する。また、心理検査も体験し、自分自身および他者について理解する力を身につけていくことを目標とする。

【授業概要】 オンデマンド教材による授業を行う。心理学の各分野の概要を説明する。また、コミュニケーションスキルを高めていくためのカウンセリングの知識及び技法等についても説明する。

【授業計画】 後期

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	心理学およびコミュニケーションの概要	心理学およびカウンセリングについて概要を説明する。
2	環境のとらえ方	人の知覚について学習する。 日常的な環境のとらえ方を理解する。
3	経験のはたらき①	人の行動について、学習する。 人は経験に基づいて、どのような行動を身につけていくかを理解する。
4	経験のはたらき②	学習および記憶のメカニズムについて学習する。 日常の行動が形成される背景について考察していく。
5	人間の空間行動①	対人距離が人間関係にもたらす影響を学ぶ。 パーソナルスペースを理解する。
6	人間の空間行動②	生活空間の認知、空間内での行動について、理解する。 携帯電話、SNSが人間関係に及ぼす影響について、考察する。
7	パーソナリティ理論①	人の性格 (パーソナリティ) を形成する背景、および分類について学習する。
8	パーソナリティ理論②	パーソナリティテストを実施し、自己分析を行う。自己を見つめることが他者理解へつながることを理解する。
9	心の痛みについて①	心の病気についての知識を学習する。不適応、フラストレーション、コンフリクトなど、揺れ動く心の状態について理解する。
10	心の痛みについて②	心の健康 (メンタルヘルス) について学習する。自身のメンタルヘルスや、周囲の人に向けての配慮等を考える。
11	心の痛みについて③	カウンセリング技法、心理療法について学習する。傾聴の仕方、コミュニケーションの取り方について、スキルを身につけていく。
12	人とのかかわり①	対人認知、対人魅力について学習する。人はどのような観点で、他者を認知するか、考察する。
13	人とのかかわり②	説得、援助行動、攻撃行動について学習する。どのようなきっかけや心境がそれらの行動を発生させているかなどについて、考察する。
14	集団心理①	集団の特徴、集団の意思決定について学習する。一人でいる場合と集団でいる場合の心理の違いについて理解する。
15	集団心理②	リーダーシップ理論を学習する。PM理論、条件即応モデルなどを学び、集団におけるリーダーシップの意義について理解する。
16	コミュニケーション行動①	言語的コミュニケーションおよび非言語的コミュニケーションの比較を行い、特徴を理解する。
17	コミュニケーション	コミュニケーションの具体的な方法を学習し、円滑なコミュニケーション

	行動②	について考察する。
18	情報と人間行動	情報化社会における人間行動を様々な角度から学ぶ。特にネットワーク社会における人間関係について考察する。
19	これまでのまとめ	これまでのまとめ。重要事項の確認を行う。
20	定期試験	課題レポート試験を行う。

【方略】 オンデマンド授業等。

【評価方法と基準】 課題レポート試験等の成績（評価：60点以上）によって評価を行う。

【学生の質問への対応】 勤務時間内随時

【教科書】 『生活にいかす心理学 Ver.2』（ナカニシヤ出版）を使用します。

【参考書】

野島一彦「臨床心理学への招待」ミネルヴァ書房

松原達哉・楡木満生「臨床心理アセスメント演習」培風館

楡木満生・田上不二夫「カウンセリング心理学 ハンドブック 上巻」金子書房

下山晴彦 編「よくわかる 臨床心理学」ミネルヴァ書房

長尾博「やさしく学ぶ カウンセリング26のレッスン」金子書房

福島脩美「総説 カウンセリング心理学」金子書房

漢方薬概論

[はり師きゅう師学科 昼夜] 1年生 (後期) 2単位 講義

非常勤講師 橋本寛子・糸数七重・専任教員 大山良治

【一般目標 (GIO)】 漢方薬は、人類の長い歴史の中で用いられてきた天然由来の薬物である。漢方薬は複数の生薬から構成され、漢方薬を理解するためには生薬の有効成分や薬能に関する知識を併せ持つことが大切である。本授業では生薬の配合意義、さらに漢方薬の基礎及び臨床効果を学ぶことにより、漢方薬に対する基礎的な理解を深めるとともに臨床的な使い方も習得する。

【授業概要】 本授業では、漢方薬の基礎を身につけるために、漢方理論に従った生薬の配合意義と重要漢方処方の効果とを講義したうえで、臨床的な使い方を習得することを目的として講義を実施する。

【授業計画】 後期

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	漢方医学の歴史と特徴	漢方医学の歴史、漢方薬の特徴を理解し、説明ができる
2	漢方理論	八綱弁証、気血水弁証、六病位、五臓など、漢方の基本的な理論について理解し、説明ができる。
3	漢方理論に基づく生薬の配合	漢方理論から見た漢方処方構成の意味、および漢方薬が多成分系であることの意義を理解し、説明ができる
4	生薬とは何か	生薬の基原となる薬用植物、生薬の薬性薬味、修治などについて理解し、説明ができる
5	代表的な生薬とその作用 (1)	発汗解表薬、温補薬、鎮咳去痰薬、清熱薬、瀉下薬に分類される生薬について、伝統的な位置づけと現在でわかっている科学的な根拠を理解し、説明ができる
6	代表的な生薬とその作用 (2)	利水・去湿薬、補益強壯薬、血薬、補津薬、気薬に分類される生薬について、伝統的な位置づけと現在でわかっている科学的な根拠を理解し、説明ができる
7	漢方理論 感染症	感染症の治療に用いる主な処方と配合生薬の伝統的な意義について理解し、説明ができる
8	漢方理論 婦人科領域	婦人科領域の治療に用いる主な処方と配合生薬の伝統的な意義について理解し、説明ができる
9	漢方理論 倦怠感と寒熱	倦怠感および冷え症、熱中症など、寒熱のトラブルの治療に用いる主な処方と配合生薬の伝統的な意義について理解し、説明ができる
10	漢方理論 ストレスと不眠	ストレスと不眠の治療に用いる主な処方と配合生薬の伝統的な意義について理解し、説明ができる
11	統合医療	統合医療についての理解し、説明ができる
12	伝統医学における健康観『養生訓』	『養生訓』を題材に、伝統医学における健康観について学び、実践ができる。
13	感染症の臨床	実際の臨床における感染症の治療について理解する
14	漢方の臨床 感染症	実際の臨床における感染症の治療について理解する
15	漢方の臨床 婦人科領域	実際の臨床における婦人科領域の治療について理解する
16	漢方の臨床 倦怠感と寒熱	実際の臨床における倦怠感と冷え・熱中症等の治療について理解する
17	漢方の臨床 ストレス	実際の臨床におけるストレスの治療について理解し、説明ができる
18	漢方の臨床 不眠	実際の臨床における不眠の治療について理解し、説明ができる
19	まとめ	まとめ

【方略】 スライドおよび板書を中心として講義を行う。

1回は大山、2～10回は糸数、11～20回は橋本が担当する。

【評価方法と基準】 定期試験の成績（評価：60点以上）により評価を行う。

【学生の質問への対応】 出勤時間内に対応（火曜日）

【教科書】 『基本がわかる漢方医学講義』日本漢方医学教育協議会 羊土社、

【参考書】 『現代医療における漢方薬改訂第3版』日本生薬学会編 南江堂
随時紹介

【一般目標 (GIO)】 ヒトは外界から物質を摂取し、消化・吸収する。消化・吸収された物質は、体内でエネルギー源として利用される他、体を構成する成分の合成に利用される。そして、代謝によって不要となった物質は老廃物として排泄される。栄養とは、人が生命維持や成長・活動するために必要な食物を摂取することと定義され、こうした生命活動の営みすべてを「栄養」と言い、食物中に含まれる成分を栄養素と呼ぶ。本栄養学の授業は、栄養の概要について理解すると共に、栄養素の分類や働き、栄養素の消化・吸収、体内での代謝、老廃物の排泄について理解することを目的としている。

【授業概要】 本授業では、栄養の基本的考え方、各栄養素とその働きについて学び、栄養と健康の関係についても概説する。

【授業計画】 後期

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	栄養の概念	栄養の定義を理解し「栄養」と「栄養素」の違いについて学ぶ。 三大栄養素と五大栄養素の働きについて理解する。
2	食物の摂取	満腹感はどのように生じるのか、空腹感と食欲の違いを理解する。 摂食中枢・満腹中枢など古くからの概念と、レプチンやグレリンなどの新しい概念について理解する。 サーカディアンリズムの特徴、様々な因子の日内変動、規則正しい摂食の必要性について理解する。
3	消化吸収と栄養素の体内動態 1	消化器系と消化腺について解剖学・生理学の立場から説明できる。 管腔内消化と膜消化の2つのステージについて説明できる。 消化管ホルモンとその働きについて説明できる。
4	消化吸収と栄養素の体内動態 2	消化酵素と栄養素の関係について説明できる。 水溶性栄養素と疎水性栄養素の吸収経路の違いについて説明できる。 食物繊維と難消化性糖質の消化吸収について説明できる。
5	たんぱく質の栄養 1	アミノ酸・たんぱく質の構造と機能について理解する。 たんぱく質の合成・分解について説明できる。
6	たんぱく質の栄養 2	不可欠アミノ酸と可欠アミノ酸の違いについて説明できる。 アミノ酸代謝について説明できる。
7	糖質の栄養 1	糖質の種類と分類について説明できる。 糖代謝の流れについて説明できる。 脳のエネルギー源が基本的にグルコースのみであることから、血糖値を一定に保つことがいかに重要か理解する。
8	糖質の栄養 2	血糖とその調節について説明できる。 糖質と脂質の相互変換について理解する。
9	脂質の栄養 1	脂質の種類と分類について説明できる。 脂肪酸からエネルギー(ATP)が合成されるまでの流れについて説明できる。
10	脂質の栄養 2	脂質の臓器間輸送について説明できる。 コレステロールとはどのようなものか説明できる。 脂肪酸由来の生理活性物質(エイコサノイド)について説明できる。
11	ビタミンの栄養 1	脂溶性ビタミンの種類と働きについて説明できる。

		<p>ビタミンの栄養学的機能について説明できる。</p> <p>脂溶性ビタミンの欠乏症と過剰症について理解する。</p>
12	ビタミンの栄養 2	<p>水溶性ビタミンの種類と働きについて説明できる。</p> <p>水溶性ビタミンの組織飽和と尿中排泄について理解する。</p> <p>水溶性ビタミンの欠乏症と過剰症について理解する。</p>
13	ミネラル(無機質)の栄養 1	<p>ミネラルの分類と栄養学的機能について説明できる。</p> <p>多量ミネラルと微量ミネラルの種類と役割について説明できる。</p>
14	ミネラル(無機質)の栄養 2	<p>硬組織とミネラルの役割について説明できる。</p> <p>生体機能の調節機構とミネラルの関与について説明できる。</p>
15	水・電解質の栄養的意義 1	<p>生体内での水分のバランスについて説明できる。</p> <p>細胞内液と細胞外液(細胞間液・血漿)について理解する。</p>
16	水・電解質の栄養的意義 2	<p>体液の浸透圧変化による脱水・浮腫のメカニズムについて理解する。</p> <p>体液量の調節や電解質代謝に関するホルモンについて説明できる。</p>
17	エネルギー代謝 1	<p>物理的燃焼値と生理的燃焼値について理解する。</p> <p>基礎代謝量とは何か、基礎代謝量に影響を与える因子について説明できる。</p>
18	エネルギー代謝 2	<p>エネルギー消費量について学ぶ。</p> <p>呼吸商とは何か、またその数値について説明できる。</p> <p>エネルギー代謝と生活習慣病との関係について理解する。</p>
19	まとめ	フレイル・ロコモ・サルコペニアの概念について理解する。
20	定期試験	課題レポート試験

【方略】 講義(板書)

【評価方法と基準】 定期試験の成績(評価:60点以上)により評価を行う。

【学生の質問への対応】 講義前及び終了後に対応する。

【教科書】 栄養科学イラストッド「基礎栄養学(第4版)」(羊土社)

【参考書】 特に指定しない。

解剖学 I

[はり師きゅう師学科 昼夜] 1年生 (通年) 4単位 講義

専任教員 松本 絹恵

【一般目標 (GIO)】 人体の構造を細胞レベルで学び、種々の内臓や循環器、ホルモンや神経などの名称を知り、他の医学を学ぶ際にも必要な医学的基礎知識を身に付け理解させる。

【授業概要】 解剖学 I では、人体の構成から始まり、内臓や脈管、ホルモンや神経など各部の名称を知り、基本的な構造を理解する事で、臨床や他の学問につながる知識が身に付くよう理解する。

【授業計画】 通年

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	オリエンテーション 人体の構成	細胞、細胞膜、細胞小器官、細胞骨格、細胞核、細胞分裂、遺伝子、などの構造を理解する。
2	人体の構成	上皮組織、結合組織、軟骨組織の分類と構造を理解する。
3	人体の構成	骨組織、血液、筋組織、神経組織などの分類と構造を理解する。
4	人体の構成	体表(皮膚の構造・皮膚の神経・血管・毛・爪・皮脂腺)の構造や人体の区分と方向について理解する。
5	循環器系	循環器系の概要、血管の構造(動脈・静脈・毛細血管など)、心臓(位置・心膜・心臓壁)についての構造を理解する。
6	循環器系	心臓(心房・心室・弁膜・刺激伝導系・心臓の血管)についての構造を理解する。
7	循環器系	血液循環(体循環・肺循環)、動脈系(頭頸部・上肢)についての構造を理解する。
8	循環器系 復習	動脈系(頭頸部・上肢)についての構造を理解する。 これまでの復習。
9	前期中間試験	学習の内容が定着しているか確認する。
10	試験返却・解説	中間試験の解説を行い、理解を深める。
11	循環器系	動脈系(胸腹部・骨盤部・下肢の動脈)についての構造を理解する。
12	循環器系	静脈系(上半身・下半身の静脈)、胎児循環についての構造を理解する。
13	循環器系	リンパ系の走行と器官(リンパ節・脾臓・胸腺・集合リンパ小節)についての構造を理解する。
14	呼吸器系	呼吸器系の概要、鼻腔、咽頭、喉頭(喉頭軟骨・声帯)、気管、気管支の構造を理解する。
15	呼吸器系	肺(肺葉・肺胞)、胸膜、縦隔についての構造を理解する。
16	消化器系	消化器系の概要、口腔(口腔・口蓋・軟口蓋・唾液腺・舌・歯)、咽頭、食道についての構造を理解する。
17	消化器系	胃(胃間膜・粘膜・胃底腺)、小腸(十二指腸・空腸・回腸)の構造を理解する。
18	消化器系 復習	大腸(盲腸・結腸・直腸・肛門)の構造を理解する。 これまでの復習。
19	前期期末試験	学習の内容が定着しているか確認する。
20	試験返却・解説	期末試験の解説を行い、理解を深める。
21	消化器系	肝臓(位置と形状・肝門・肝小葉)の構造を理解する。
22	消化器系	胆嚢(位置・胆汁の流れ)、膵臓、腹膜(腹膜内臓器・腹膜後臓器)の分類と

		構造を理解する。
23	泌尿器系	泌尿器系の概要、腎臓(肉眼構造・組織構造・血管)、尿路(尿管、膀胱、尿道)の構造を理解する。
24	生殖器系	生殖器系の概要、男性生殖器(精巣・精路・精管)、付属腺、外生殖器の構造を理解する。
25	生殖器系	女性生殖器(卵巣・卵管・子宮・子宮壁・腔)、外生殖器の構造を理解する。
26	生殖器系	受精と発生(受精・卵割・着床・胚葉)、胎盤について理解する。 下垂体の構造と下垂体前葉ホルモン、下垂体後葉ホルモンを学ぶ。
27	内分泌系	内分泌系の概要、下垂体の構造と下垂体前葉・後葉ホルモンを学ぶ。 松果体、甲状腺、副甲状腺の構造と分泌されるホルモンについて理解する。
28	内分泌系 復習	副腎(皮質・髄質)の構造と各器官(膵臓・精巣・卵巣など)から分泌されるホルモンについて理解する。 これまでの復習。
29	後期中間試験	学習の内容が定着しているか確認する。
30	試験返却・解説	中間試験の解説を行い、理解を深める。
31	神経系	神経系の概要、神経の構成、神経膠細胞、灰白質と白質、脊髄(脊髄神経)の構造を理解する。
32	神経系	脳幹(中脳、橋、延髄)、小脳、間脳(視床・視床下部)の構造を理解する。
33	神経系	大脳(皮質・髄質・運動野・感覚野・連合野・言語野・大脳基底核)の構造を学ぶ。
34	神経系	脳室系、髄膜(硬膜・くも膜・軟膜)、脳脊髄液、脳の血管について構造を理解する。
35	神経系	伝導路、下行性伝導路(錐体路・錐体外路)、上行性伝導路、感覚伝導路、の種類と走行を理解する。
36	神経系	末梢神経系(脳神経・頭蓋底の通路)、脊髄神経(神経叢)、自律神経系について理解する。
37	感覚器系	視覚器(眼球・眼球壁・視細胞・眼底)、眼房、眼房水、付属器(眼瞼・涙器・眼筋)の構造を理解する。
38	感覚器系 復習	平衡聴覚器(外耳・中耳：鼓室・内耳：蝸牛・前庭・半規管)、味覚器、嗅覚器の構造を理解する。これまでに復習。
39	後期期末試験	学習の内容が定着しているか確認する。
40	試験返却・解説	期末試験の解説を行い、理解を深める。

***内容が前後する場合があります**

【方略】 スライドおよび板書を中心として講義を行う。

【評価方法と基準】 中間試験、期末試験を総合して評価を行う。

【学生の質問への対応】 授業中、勤務時間内

【教科書】 「解剖学 第2版」医歯薬出版株式会社

【参考書】 「カラー図解 人体の正常構造と機能」「イラスト解剖学」「解剖学の基本」「人体解剖パーフェクト辞典」等

実務年数(鍼灸院) 15年

解剖学Ⅱ

[はり師きゅう師学科 昼夜] 1年生 (通年) 4単位 講義

専任教員 岩瀬 俊文

【一般目標 (GIO)】解剖学Ⅱは、人体の骨や筋の構成、脈管や神経、それらの名称や作用など、医学的基礎知識を理解する事を目標とする。人体の構造を理解することは、医学分野の学習をするうえで欠かすことのできない基本的知識であると理解し、意欲的に取り組むよう指導する。

【授業概要】解剖学Ⅱでは、人体を構成するものとは何かを知り、人間の運動にかかわる基本的な構造や構成、作用を知ることにより、臨床や他の学問に繋がる知識を持つことを教授する。

【授業計画】 通年

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	オリエンテーション 運動器系[総論] 骨格系	授業ガイダンス 骨の形状、骨の構造、骨の連結 骨の形状～骨の連結、関節の構造まで
2	運動器系[総論] 筋系、運動の表し方	筋の付着、筋の形、筋の神経、筋の補助装置、筋の作用と運動の種類や名称、その作用を理解する。筋の付着～筋の作用と運動まで。
3	運動器系[全身の骨格] 脊柱	脊柱の構成、各部の椎骨の種類や名称、その作用を理解する。 脊柱の構成～各部の椎骨の隆椎まで。
4	運動器系[全身の骨格] 脊柱、胸郭の運動	各部の椎骨、脊柱の側弯、胸郭の構成の種類や名称、その作用を理解する。 各部の椎骨の胸椎～胸郭の胸骨まで。
5	運動器系[全身の骨格] 胸郭、上肢の骨格	胸郭の肋骨、上肢帯の骨、自由上肢の骨の種類や名称、その作用を理解する。胸郭の肋骨～前腕の骨まで。
6	運動器系[全身の骨格] 上肢の骨格と運動	自由上肢の骨、上肢の関節の種類や名称、その作用を理解する。 手の骨～指の関節まで。
7	運動器系[全身の骨格] 下肢の骨格と運動	下肢帯の骨、自由下肢の骨の種類や名称、その作用を理解する。 下肢帯の骨の寛骨～自由下肢の骨の膝蓋骨まで。
8	運動器系[全身の骨格] 下肢の骨格と運動	下腿の骨、足の骨、下肢の関節の種類や名称、その作用を理解する。 下腿の骨～股関節まで。
9	運動器系[全身の骨格] 下肢の骨格と運動	下肢の関節の種類や名称、その作用を理解する。 下肢の関節の膝関節～足弓まで。
10	定期試験(中間テスト)	記述式、穴埋め問題、4者択一問題。
11	定期試験解説	定期試験の解答・解説
12	運動器系[全身の骨格] 頭蓋骨	頭蓋骨、顔面頭蓋、脳頭蓋をつくる骨の種類や名称を理解する。 顔面頭蓋～篩骨まで。
13	運動器系[全身の骨格] 頭蓋骨 体幹の筋	顔面頭蓋をつくる骨、頭部の関節・顎関節の種類や名称、その作用を理解する。胸筋の種類や名称、その作用を理解する。 顔面頭蓋をつくる骨～深胸筋まで。
14	運動器系[全身の骨格] 体幹の筋	横隔膜の形状や作用を理解する。腹筋の種類や名称、その作用を理解する。 横隔膜～兎径靭帯・兎径管まで。
15	運動器系[体幹] 体幹の筋	後腹筋の名称やその作用を理解する。会陰筋、背筋の種類や名称、その作用を理解する。後腹筋～菱形筋まで。
16	運動器系[体幹] 体幹の筋、運動、局所解剖	深背筋の種類や名称、その作用を理解する。体幹の運動の種類や名称、その方法や作用を理解する。胸部、腹部の局所解剖を理解する。 深背筋～兎径管まで。

17	運動器系[体幹] 体幹の局所解剖、脈管、 運動	背部の局所解剖を理解する。 胸壁、腹壁、会陰、背部の動脈、静脈、リンパの種類や名称、その作用を理解する。
18	運動器系[体幹] 体幹の神経	胸壁、腹壁、会陰、背部の神経の種類や名称、その作用を理解する。 胸壁の神経～背部の神経まで。
19	定期試験(期末テスト)	記述式、穴埋め問題、4者択一問題。
20	定期試験解説	定期試験の解答・解説
21	運動器系[上肢] 上肢の筋 上肢帯の運動	上肢帯の筋、上腕の屈筋や伸筋の種類や名称、その作用や走行、起始・停止を理解する。 上肢帯の筋～上腕の伸筋群まで。
22	運動器系[上肢] 上肢の筋	前腕の屈筋や伸筋の種類や名称、その作用や走行、起始・停止を理解する。 前腕の筋～尺側手根伸筋まで。
23	運動器系[上肢] 上肢の筋 上肢の運動	前腕の深層の筋の種類や名称、その作用や走行、起始・停止を理解する。 手の筋の種類や名称、その作用を理解する。 前腕の深層の伸筋～掌側・背側骨間筋まで。
24	運動器系[上肢] 上肢の運動 上肢の局所解剖	肩関節の運動、肘関節の運動の種類や名称、その作用を理解する。肋鎖間隙、腋窩、上腕筋間中隔、肘窩、屈筋支帯と手根管、伸筋支帯の局所解剖を理解する。肩関節の運動～伸筋支帯まで。
25	運動器系[上肢] 上肢の脈管、神経	上肢の動脈、静脈、リンパの種類や名称、その作用を理解する。腕神経叢の構成を理解する。上肢の脈管～腕神経叢まで。
26	運動器系[上肢] 上肢の神経	上肢前面の神経走行、上肢帯での神経走行、上肢後面の神経走行を理解する。上肢前面の神経走行～上肢後面の神経走行まで。
27	運動器系[下肢] 下肢の筋	下肢帯の筋の種類や名称、その作用や走行、起始・停止を理解する。 下肢の筋～梨状筋まで。
28	運動器系[下肢] 下肢の筋と運動	大腿の筋の種類や名称、その作用や走行、起始・停止を理解する。 大腿の筋～大腿後面の筋まで。
29	運動器系[上肢] 下肢の筋と運動	下腿の筋の種類や名称、その作用や走行、起始・停止を理解する。 下腿の筋～後脛骨筋まで。
30	定期試験(中間テスト)	記述式、穴埋め問題、4者択一問題。
31	定期試験解説	定期試験の解答・解説
32	運動器系[下肢] 下肢の筋と運動	足の筋の種類や名称、その作用や走行、起始・停止を理解する。 股関節、膝関節、足部、足指の運動を理解する。
33	運動器系[下肢] 下肢の脈管	下肢の動脈、静脈、リンパの種類や名称、その走行や作用を理解する。 下肢の脈管～下肢のリンパまで。
34	運動器系[下肢] 下肢の神経	腰神経叢、仙骨神経叢の種類や名称、その走行や作用を理解する。 下肢の神経～陰部神経まで。
35	運動器系[頭頸部] 頭頸部の筋	頭部の筋、頸部の筋の種類や名称、その作用や走行、起始・停止を理解する。頭頸部の筋～項部の筋まで。
36	運動器系[頭頸部] 頭頸部の局所解剖	頭部の局所解剖を理解する。総頸動脈の種類や名称、その走行や作用を理解する。頭頸部の体表および局所解剖～頸動脈まで。
37	運動器系[頭頸部] 頭頸部の脈管 頭頸部の神経	鎖骨下動脈、頭頸部の静脈、リンパの種類や名称、その走行や作用を理解する。脳神経の種類や名称、その走行や作用を理解する。 鎖骨下動脈～外転神経まで。
38	運動器系[頭頸部] 頭頸部の神経	脳神経の種類や名称、その走行や作用を理解する。 顔面神経～下頸神経節まで。

39	定期試験(期末テスト)	記述式、穴埋め問題、4者択一問題。
40	定期試験解説	定期試験の解答・解説

【方略】 講義 パワーポイントおよび板書、配布資料

【評価方法と基準】 中間試験、期末試験を総合して評価を行う。

【学生の質問への対応】 授業内、授業後、その他

【教科書】 「解剖生理 第1版」医歯薬出版株式会社

【参考書】 「解剖学 第2版」医歯薬出版株式会社

「イラスト解剖学 第5版」 松村讓兒 著 中外医学社

その他、随時紹介

実務年数（鍼灸院） 15年

生理学 I

[はり師きゅう師学科 昼夜] 1年生 (通年) 4単位 講義

専任教員 清信 芳月

【一般目標 (GIO)】 生理学は生命現象のメカニズムを追求する学問であり、科学的手法を用いて機能面を重視する。その学習のためには種々の基礎的知識や技術を生かし、生命現象に内在する法則性を見いだすことで、さらに総合的な生命現象を理解させる。

【授業概要】 生理学 I では基本的な生理学の概念を説明し、臓器ごとの生理現象についてその存在意義とメカニズムについて解説していく。生理学は鍼灸師が習得すべき医学知識の礎となるものであり、鍼灸師が臨床現場で遭遇するであろう疾患などと関連付けながら講義を進めていく。

【授業計画】 通年

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	オリテ・生理学の基礎	人体とは何か。人体を構成する最小単位は細胞であることを知る。
2	生理学の基礎	細胞に含まれる様々な細胞小器官と、その働きを知る。
3	血液について①	血液とは何か、その働きについて知る。
4	血液について②	血球とは何か、どのような働きをする細胞なのかを知る。
5	循環器について①	循環とは何か、心臓について知る。
6	循環器について②	心周期について知る。
7	循環器について③	循環の反射機構について知る。
8	循環器について④	リンパ循環について知る。
9	まとめ	1～8回のまとめを行う。
10	中間試験	学習の内容が定着しているか確認する。
11	試験解答・解説	中間テストの解説を行い、理解を深める。
12	呼吸器について①	呼吸器系について知る。
13	呼吸器について②	肺気量分画について知る。
14	呼吸器について③	呼吸反射について知る。
15	消化器について①	消化器について知る。
16	消化器について②	胃腸内の消化について知る
17	消化器について③	膵臓、胆嚢について知る。
18	まとめ	12～17回のまとめを行う。
19	期末試験	学習の内容が定着しているか確認する。
20	試験解答・解説	期末試験の解説を行い、理解を深める。
21	消化器について⑤	肝臓、大腸について知る。
22	栄養と代謝①	栄養素について知る。糖質について知る。
23	栄養と代謝②	脂質について知る。
24	栄養と代謝③	タンパク質、ビタミンについて知る。
25	体温①	体温について知る。産熱と熱放散について知る。
26	体温②	体温の調節について知る。
27	泌尿器①	泌尿器について知る。尿の生成について知る。
28	まとめ	21～27回のまとめを行う。
29	中間試験	学習の内容が定着しているか確認する。

30	テスト解説	中間テストの解説を行い、理解を深める。
31	泌尿器②	腎クリアランス、体液の調節について知る。
32	内分泌①	内分泌のシステムについて知る。
33	内分泌②	脳下垂体から分泌されるホルモンについて知る。
34	内分泌③	甲状腺・副甲状腺・膵臓から分泌されるホルモンについて知る。
35	内分泌④	副腎から分泌されるホルモンについて知る。
36	内分泌⑤	性腺から分泌されるホルモンについて知る。男性生殖器について知る。
37	生殖器	女性生殖器の働き、妊娠について知る。
38	成長・老化、復習	ヒトの成長と老化について知る。これまでの復習。
39	期末試験	学習の内容が定着しているか確認する。
40	テスト解説	期末テストの解説を行い、理解を深める。

【方略】 講義、スライド、板書（対面）

【評価方法と基準】 中間試験、期末試験を総合して評価を行う。

【学生の質問への対応】 授業中、勤務時間内随時

【教科書】 東洋療法学校協会編 「解剖生理」 医歯薬出版株式会社

【参考書】 東洋療法学校協会編 「生理学 第3版」 医歯薬出版株式会社

竹内昭博 「Qシリーズ 新生理学」 日本医事新報社

中島雅美 「運動・からだ図鑑 新版 生理学の基本」 株式会社マイナビ出版

実務年数（鍼灸院） 4年

生理学Ⅱ

[はり師きゅう師学科 昼夜] 1年生 (通年) 4単位 講義

専任教員 梅田 伸哉

〔一般目標 (GIO) 〕

生理学は生体の機能とそのメカニズムを解明する学問である。この科目では、神経、自律神経、筋、運動、感覚、生体の防御機構について、それぞれの正常な機能とそのメカニズムについて学習する。上記内容を学習し、正常な機能の破綻によって生じる病気・病態について、理解する力を養う。

〔授業概要〕

教科書、配布資料をもとに授業を行う。ホワイトボード、パワーポイントなどを使用して教科書の内容を図式化し、内容をイメージできるように授業を行っていく。

〔授業計画〕 通年

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	オリエンテーション 神経系	オリエンテーションでは年間スケジュールの確認、成績の付け方について説明を行う。また、神経系とは何か、神経系の役割と分類について説明する。
2	神経細胞と支持細胞	神経細胞の特徴と、神経支持細胞の持つ機能や特徴について学習する。
3	神経線維の興奮と伝導	平時の神経細胞内は、神経細胞外に対し負の電位を示す。刺激を受けると神経細胞内に電位変化が起こり、やがて電気が流れる。この仕組みについて学習する。
4	興奮の伝達	神経細胞と他の細胞との間で、興奮の伝達が行われる。興奮の伝達はどのように行われるのか、その仕組みについて学習する。
5	末梢神経系	末梢神経系とは何か、また末梢神経系の分類と名称について学習する。
6	中枢神経系・脊髄	中枢神経系とは何か、また中枢神経系のうち、脊髄の構造と機能について学習する。
7	中枢神経系・脳幹	脳幹とは何か、脳幹の持つ機能について学習する。
8	中枢神経系・間脳	間脳とは何か、間脳の持つ機能について学習する。
9	中枢神経系・小脳	小脳の持つ機能について学習する。
10	中間テスト	
11	中枢神経系・大脳	大脳のうち、大脳基底核、大脳辺縁系について学習する。
12	中枢神経系・大脳	大脳の新皮質について学習する。大脳新皮質は各部位が異なった役割を果たしており、これを機能局在という。大脳のどの部位がどのような役割を果たしているのか学習していく。
13	中枢神経系・大脳	大脳の機能局在について学習していく。
14	中枢神経系・大脳	脳波、睡眠、脳脊髄液について学習する。
15	内臓の自律神経調節	自律神経系の概要について説明する。自律神経のうち、交感神経と副交感神経の特徴について学習する。
16	内臓の自律神経調節	交感神経と副交感神経による体内調節について学習する。
17	内臓の自律神経調節	自律神経調節の特徴と神経伝達物質、および受容体について学習する。
18	内臓の自律神経調節	自律神経の中枢と自律神経反射について学習する。
19	期末テスト	
20	テスト解説	期末テストについて解説を行い、テスト内容の確認を行う。
21	筋	はじめに筋の種類について学習する。その後、骨格筋の構造と機能、収縮の仕組みについて学習する。

22	筋	筋収縮の様式、弛緩の仕組み、筋のエネルギー供給の仕組みについて学習する。
23	筋、運動	平滑筋、心筋の特徴、骨格筋の神経支配について学習する。
24	運動	筋紡錘、腱受容器、 α 運動ニューロン、 γ 運動ニューロンの機能、及び脊髄レベルでの運動調節について学習する。
25	運動	脊髄レベルでの運動調節について学習する。
26	運動	脳幹による運動調節、小脳について学習する。
27	運動	大脳基底核、大脳皮質による運動調節について学習する。
28	運動	大脳皮質による運動調節、錐体路について学習する。
29	運動	錐体外路、発声、及び言語について学習する。
30	中間テスト	
31	感覚	感覚の分類と一般的性質、受容器と興奮伝達、及び体性感覚について学習する。特に受容器と感覚情報を伝える神経線維について学習する。
32	感覚	体性感覚の伝導路、及び内臓感覚と臓器感覚、痛覚について学習する。
33	感覚	内因性発痛物質、痛みによる反応、痛みの抑制系について学習する。
34	感覚	特殊感覚とは何か、特殊感覚の味覚と嗅覚、聴覚について学習する。
35	感覚	聴覚と平衡覚、及び視覚について学習する。
36	感覚	視覚について学習する。
37	生体の防御機構	生体の防御機構の概要と、先天性免疫、炎症反応について学習する。
38	生体の防御機構	後天性免疫、抗体、補体、細胞性免疫と液性免疫、アレルギーと膠原病について学習する。について学習する。
39	期末テスト	
40	テスト解説	期末テストについて解説を行い、テスト内容の確認を行う。

【方略】 講義

【評価方法と基準】 中間試験、期末試験を総合して評価を行う。

【学生の質問への対応】 随時受け付ける。

【教科書】 社団法人東洋療法学校協会編 生理学 第3版

【参考書】 随時紹介していく

実務年数（鍼灸院） 21年

東洋医学概論 I

[はり師きゅう師学科 昼夜] 1年生 (通年) 4単位 講義

専任教員 片山 玲美

【一般目標 (GIO)】 前期・後期を通じて、東洋医学の基礎概念を学習し理解する。2・3年に学習する東洋医学概論Ⅱ・東洋医学臨床論に対応できるよう東洋医学の基礎を作る。

【授業概要】 プリントを配布し、それを中心に授業を進める。

【授業計画】 通年

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	オリエンテーション 東洋医学の歴史 陰陽学説	東洋医学の歴史、および人体に対する東洋医学の基本的な考え方や基本的な治療法の概要について学ぶ。
2	陰陽学説	人体に対する東洋医学の基本的な考え方や基本的な治療法の概要について学ぶ。
3	五行学説	人体に対する東洋医学の基本的な考え方や基本的な治療法の概要について学ぶ。
4	五行学説 虚実と標本 治療法	人体に対する東洋医学の基本的な考え方や基本的な治療法の概要について学ぶ。
5	東洋医学の現状	東洋医学の現状について知る。
6	精の生理・病理	生体物質・精の生理・病理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
7	気の生理・分類	気の生理・分類について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
8	気の病理	気の病理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
9	気の病理 前期中間前復習	気の病理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。 前期中間前の復習・確認。
10	前期中間試験	記述問題ならびに選択問題。
11	中間試験返却・解説	誤った箇所を訂正し、理解する。
12	血の生理・病理	血の生理・病理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
13	血の病理	血の病理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
14	津液の生理・分類 津液の病理	津液の生理・分類・病理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
15	生体物質の相互関係	生体物質の相互関係について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
16	生体物質の相互関係 神の生理	生体物質の相互関係・神の生理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
17	五志・七情 神の病理	五志・七情・神の病理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
18	前期期末試験前復習	前期期末前の復習・確認。
19	前期期末試験	記述問題ならびに選択問題。
20	期末試験返却・解説	誤った箇所を訂正し、理解する。
21	陰陽の生理・病理	陰陽の生理・病理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
22	蔵象学説	蔵象学説について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
23	肝の生理	肝の生理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。

24	肝の生理・病理	肝の生理・病理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
25	肝の病理	肝の生理・病理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
26	胆の生理・病理	胆の生理・病理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
27	心の生理	心の生理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
28	心の病理	心の生理・病理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
29	心の病理 小腸の生理・病理	心・小腸の生理・病理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
30	後期中間試験	記述問題ならびに選択問題。
31	中間試験返却・解説	誤った箇所を訂正し、理解する。
32	脾の生理	脾の生理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
33	脾の病理 胃の生理・病理	脾・胃の生理・病理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
34	脾胃の相互関係 肺の生理	脾胃の相互関係、および肺の生理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
35	肺の生理・病理	肺の生理・病理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
36	大腸の生理・病理 腎の生理	大腸、および腎の生理・病理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
37	腎の生理・病理	腎の生理・病理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
38	膀胱の生理・病理 三焦の生理	膀胱の生理・病理および三焦の生理について理解し、診断・治療を行うための基礎を学ぶ。
39	後期期末試験	記述問題ならびに選択問題。
40	期末試験返却・解説	誤った箇所を訂正し、理解する。

【方略】 講義・配布資料

【評価方法と基準】 中間試験、期末試験を総合して評価を行う。

【学生の質問への対応】 勤務時間内に行う。

【教科書】 『新版 東洋医学概論』教科書執筆小委員会（医道の日本社）

【参考書】 その他随時紹介する。

実務年数（鍼灸院）18年

経絡経穴概論

[はり師きゅう師学科 昼夜] 1年生 (通年) 4単位 講義

専任教員 丸山 真由美

【一般目標 (GIO)】 鍼灸治療の基本となる経絡経穴について、各経脈所属の経穴の名称および部位について学習し理解する。

【授業概要】 講義においては、経脈ごとに要穴、ランドマークとなる経穴を重点的に学習し、取穴の部位の確認も交えながら授業を行っていく。

【授業計画】 通年

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	経絡経穴の基礎	オリエンテーション、経穴の基礎概念を学ぶ
2	経絡経穴の基礎	経穴の基礎概念を学ぶ
3	経絡経穴の基礎	定位と尺度 (経穴を取穴するにあたり基準となる長さを学ぶ) 要穴について学ぶ
4	手の太陰肺経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
5	手の太陰肺経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
6	手の陽明大腸経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
7	手の陽明大腸経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
8	足の陽明胃経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
9	前期中間試験	前期中間試験
10	前期中間試験解説 足の陽明胃経	前期中間試験解説 経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
11	足の陽明胃経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
12	足の太陰脾経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
13	足の太陰脾経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
14	手の少陰心経 手の太陽小腸経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
15	手の太陽小腸経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
16	手の少陰心経 手の太陽小腸経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
17	足の太陽膀胱経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
18	前期復習	
19	前期期末試験	前期期末試験
20	前期期末試験解説 足の太陽膀胱経	前期期末試験解説 経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
21	足の太陽膀胱経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
22	足の太陽膀胱経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
23	足の少陰腎経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
24	足の少陰腎経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
25	手の厥陰心包経 手の少陽三焦経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
26	手の少陽三焦経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ

27	手の厥陰心包経 手の少陽三焦経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
28	足の少陽胆経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
29	後期中間試験	後期中間試験
30	後期中間試験解説	後期中間試験解説
31	足の少陽胆経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
32	足の少陽胆経 足の厥陰肝経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
33	足の少陽胆経 足の厥陰肝経	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
34	奇経八脈	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
35	奇経八脈	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ
36	奇経八脈 経穴の現代的研究	経穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴を学ぶ 経穴の現代的な研究について学ぶ
37	奇穴	奇穴の取穴部位及び、解剖学的な特徴と疾患の関連を学ぶ
38	試験対策	試験対策を行う。
39	後期末試験	期末試験
40	後期末試験解説	期末試験解説

【方略】 講義・演習（取穴）

【評価方法と基準】 中間試験、期末試験を総合して評価を行う。

【学生の質問への対応】 授業中・勤務時間内

【教科書】 『新版 経絡経穴概論第2版』東洋療法学校協会編（医道の日本社）

【参考書】 随時紹介

実務年数（鍼灸院）7年

鍼灸理論 I

[はり師きゅう師学科 昼夜] 1 年生 (前期) 2 単位 講義

専任教員 澤口 真也

【一般目標 (GIO)】 鍼術や灸術の定義、鍼・灸の名称や種類、刺鍼の方式術式、リスク管理や禁忌、消毒法など、鍼灸においての基本的な知識を身につけることを目標とする。

【授業概要】 鍼灸理論 I では、鍼灸とは何か、またどのような道具を使用し、どのように行い、どのようなことに気を付けなければならないかを学び、今後の鍼灸臨床に繋がる基本知識を持つことを教授する。

【授業計画】 前期

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	オリエンテーション 概論・鍼の基礎知識	授業ガイダンス 鍼の名称、長さとお太さ、鍼尖の形状、鍼の材質
2	刺鍼の方式と術式	刺鍼法、刺鍼の手順 (揉捻法、押手、切皮と弾入、刺手、刺入法)
3	刺鍼の方式と術式	刺鍼の角度、抜鍼、挿管法、刺鍼中の手技 (17 手技)
4	特殊鍼法	小児鍼、皮内鍼、円皮鍼、灸頭鍼
5	特殊鍼法、その他の鍼	低周波鍼通電療法、イオン鍼、鋳鍼、耳鍼、磁気粒、レーザー鍼
6	その他の鍼	刺絡、頭鍼、火鍼、打鍼、挫刺鍼、TENS、SSP 療法
7	古代九鍼	古代九鍼とは、古代九鍼の分類 (破る鍼)
8	古代九鍼	古代九鍼の分類 (刺入する鍼、刺入しない鍼)
9	定期試験 (中間テスト)	穴埋め問題、4 者択一問題
10	定期試験解説	定期試験の解答・解説
11	灸の基礎知識	艾の材料、成分、艾作り
12	灸の基礎知識、灸術の種類	艾の品質、線香、有痕灸
13	灸術の種類	無痕灸、熱の伝導様式
14	リスク管理	鍼の刺激量、灸の刺激量、鍼灸の適応と不適応
15	リスク管理	注意を必要とする患者、感染防止対策、滅菌、手洗い
16	リスク管理	手指消毒、患部消毒、院内の消毒、血液感染・鍼刺し事故
17	有害事象	内出血・出血、脳貧血、違和感、感染症、気胸、臓器損傷・神経損傷
18	有害事象	抜鍼困難、折鍼、埋没鍼、鍼の抜き忘れ、気分不良、熱傷、灸痕化膿
19	定期試験 (期末テスト)	穴埋め問題、4 者択一問題
20	定期試験解説	定期試験の解答・解説

【方略】 講義 (教科書、配布資料)、および板書、プロジェクター

【評価方法と基準】 中間試験、期末試験を総合して評価を行う。

【学生の質問への対応】 授業内、授業後、その他

【教科書】 「はりきゅう理論第3版」教科書執筆小委員会 著 医道の日本社

【参考書】 「はりきゅう実技 基礎編」教科書執筆小委員会 著 医道の日本社

「図解 鍼灸療法技術ガイド I・II」矢野忠 著 文光堂

「ビジュアルでわかる 九鍼実技解説」東京九鍼研究会編 著 緑書房

実務年数 (鍼灸院) 18 年

基礎はりきゅう実技 I (鍼)

[はり師きゅう師学科 昼夜] 1年生 (通年) 2単位 実技

専任教員 片山 玲美

【一般目標 (GIO)】 基礎はりきゅう実技 I は鍼の基礎技術と知識を習得し、施術を安全かつ確実に行える基本的な能力を身につけることを目標とする。

【授業概要】 基礎はりきゅう実技 I では、治療家として患者に対するマナー、消毒や施術道具の取り扱いなどの衛生管理、施術において注意すべき点などを理解し、患者に不快感を与えず安全に対応できるような技能を習得する。鍼の基礎知識を確認後、デモンストレーションを行い、安全かつ適切な刺鍼技術を習得し、刺鍼の基礎となる土台を築けるよう指導を行う。

【授業計画】 通年

回	項目	到達目標 (授業内容)
1	オリエンテーション	授業の流れを確認する。手指洗浄および消毒を理解し実践する。 施術道具の取扱・管理、実技室でのマナーを理解し実践できる。
2	挿管法 (両手挿管) 刺鍼練習	鍼の安全管理、鍼の部位、医療廃棄物の処理方法について理解する。 基本姿勢・刺入法について理解する。
3	挿管法 (片手挿管)	片手挿管の手順を理解する。
4	挿管法 (片手挿管) 管鍼法 刺入練習 (送り込み刺法)	片手挿管の復習・確認を行う。 押手・刺手について理解する。
5	管鍼法 刺入練習 (送り込み刺法)	弾入切皮について理解する。直刺について理解する。 トイレットペーパーに刺入練習を行う。
6	捻鍼法 刺入練習	鍼の材質の違い、刺鍼方法について理解する。 捻鍼法について理解をする。
7	捻鍼法 刺入練習	人体への刺鍼で起こりうる過誤と対処法について確認する。 トイレットペーパーに捻鍼法の練習を行う。
8	刺鍼手順 自分の下腿への刺鍼	リスク管理。消毒・刺鍼手順について理解する。 自分の下腿に刺鍼 (送り込み刺法) する。
9	自分の下腿への刺鍼	リスク管理。自分の下腿への刺鍼 (送り込み刺法) を行う。 刺鍼後の備品の消毒滅菌法について理解する。
10	下腿への刺鍼 (直刺)	相手の下腿へ刺鍼 (送り込み刺法) を行う。
11	下腿への刺鍼 (直刺)	相手の下腿へ刺鍼 (送り込み刺法) を行う。
12	下腿への刺鍼 (斜刺)	斜刺の刺入方法について理解する。 相手の下腿へ刺鍼 (送り込み刺法) (斜刺) を行う。
13	下腿・大腿への刺鍼	斜刺の刺入方法について復習・確認する。 相手の大腿へ刺鍼 (送り込み刺法) (直刺・斜刺) を行う。
14	下腿・大腿への刺鍼	相手の大腿へ刺鍼 (送り込み刺法) (直刺・斜刺) を行う。 刺鍼転向法について理解する。
15	前腕部への刺鍼	相手の前腕へ刺鍼 (送り込み刺法) を行う。
16	復習	試験について説明。試験に向け練習を行う。
17	前期期末試験①	相手の下腿に直刺・斜刺で刺鍼する。
18	前期期末試験②	同上

19	試験のフィードバック	試験のフィードバックをし、出来ているところ、出来ていないところを再確認する。
20	刺鍼転向・横刺 前期追再試験	刺鍼転向法、横刺について理解し、安全で適切な刺鍼ができるようにする。 (前期追・再試験)
21	腰殿部への刺鍼	腰殿部への刺鍼時の注意点を理解し、安全で適切な刺鍼ができるようにする。
22	腰殿部への刺鍼	腰殿部への刺鍼時の注意点を理解し、安全で適切な刺鍼ができるようにする。
23	腰殿部への刺鍼	腰殿部への刺鍼時の注意点を理解し、安全で適切な刺鍼ができるようにする。
24	腰殿部への刺鍼	腰殿部への刺鍼時の注意点を理解し、安全で適切な刺鍼ができるようにする。
25	腰殿部への刺鍼 (交叉刺)	交叉刺について理解し、安全で適切な刺鍼ができるようにする。
26	腰殿部への刺鍼 (交叉刺)	交叉刺について理解し、安全で適切な刺鍼ができるようにする。
27	腰背部への刺鍼 (交叉刺)	交叉刺について理解し、安全で適切な刺鍼ができるようにする。
28	腰背部への刺鍼 (交叉刺)	交叉刺について理解し、安全で適切な刺鍼ができるようにする。
29	肩背部への刺鍼	肩背部への刺鍼時の注意点を理解し、安全で適切な刺鍼ができるようにする。
30	肩背部への刺鍼	肩背部への刺鍼時の注意点を理解し、安全で適切な刺鍼ができるようにする。
31	肩背部への刺鍼 (交叉刺)	交叉刺について理解し、安全で適切な刺鍼ができるようにする。
32	肩背部への刺鍼 (交叉刺)	交叉刺について理解し、安全で適切な刺鍼ができるようにする。
33	肩背部への刺鍼 (交叉刺)	交叉刺について理解し、安全で適切な刺鍼ができるようにする。
34	頸部への刺鍼	頸部への刺鍼時の注意点を理解し、安全で適切な刺鍼ができるようにする。
35	頭・顔面部への刺鍼	頭・顔面部への刺鍼時の注意点を理解し、安全で適切な刺鍼ができるようにする。
36	復習	試験について説明。試験に向け練習を行う。
37	期末試験①	相手の背部に交叉刺で刺鍼する。
38	期末試験②	同上
39	フィードバック	試験のフィードバックをし、出来ているところ、出来ていないところを再確認する。
40	復習 後期追再試験	人体刺鍼の復習。 (後期追・再試験)

【方略】 実技演習、講義(はりきゅう実技教科書・板書)

【評価方法と基準】 定期試験を総合して評価を行う。

【学生の質問への対応】 授業中・勤務時間内随時

【参考書】 東洋療法学校協会編 『はりきゅう実技(基礎編)』 医道の日本社

東洋療法学校協会編 『はりきゅう理論』 医道の日本社

東洋療法学校協会編 『新版 経絡経穴概論』 医道の日本社

実務年数(鍼灸院) 18年

基礎はりきゅう実技Ⅱ（灸）

[はり師きゅう師学科 昼夜] 1年生（通年） 2単位 実技

専任教員 清信 芳月

【一般目標（GIO）】基礎はりきゅう実技Ⅱは、灸の知識を学ぶと同時に、灸の捻り方、据え方を段階的に学び、繰り返し練習することによって灸の基礎的技術を習得する。

【授業概要】基礎はりきゅう実技Ⅱでは、治療家として、患者に対するマナー、消毒や施術道具の取り扱いなどの衛生管理、施術において注意すべき点などを理解し、患者に不快感を与えずかつ安全に対応できるような技能を習得する。また灸に対する基礎知識や技術を習得し、灸の基礎となる土台を築き、今後履修する治療を踏まえた授業に対応できるようにする。

【授業計画】 通年

回	項目	到達目標（授業内容）
1	オリエンテーション	授業の流れを確認する。手指洗浄および消毒を理解し実践する。 施術道具の取扱・管理、実技室でのマナーを理解する。自己紹介。
2	灸の基本知識と艾炷の捻り方	灸の基本知識（種類、艾の品質、保存、線香）について理解する。 基本姿勢を理解する。
3	灸の基本知識と艾炷の捻り方	灸の基本知識（灸術の種類）について理解する。 艾炷の形と大きさ、艾炷の捻り方（米粒大）を理解する。
4	灸の基本知識と艾炷の捻り方	灸の基本知識（灸術の種類）について理解する。 艾炷の形と大きさ、艾炷の捻り方（米粒大）を理解する。
5	米粒大の艾炷	艾炷の捻り方（米粒大）を練習する。
6	米粒大の艾炷 艾炷の点火	艾炷の捻り方（米粒大）を練習する。 線香の取扱いと点火について理解する。
7	米粒大の艾炷	艾炷の捻り方（米粒大）を練習する。
8	米粒大の艾炷	試験について説明。艾炷の捻り方（米粒大）を練習する。
9	前期中間試験	正しく艾炷（米粒大）を捻れているか、形・大きさは一定か、1分間に何 壮できるか等をチェックする。
10	フィードバック 艾炷の点火練習	試験のフィードバックをし、出来ているところ、出来ていないところを再 確認する。艾炷への点火練習をする。
11	透熱灸（半米粒大）	艾炷の形と大きさ（半米粒大）を理解する。 紙施灸。竹筒を使い施灸の練習をする。
12	透熱灸・八分灸の練習	紙施灸。竹筒を使い施灸の練習をする。 温熱緩和法のやり方を理解し、練習をする。
13	透熱灸・八分灸の練習	紙施灸。竹筒を使い施灸の練習をする。 温熱緩和法のやり方を理解し、練習をする。
14	透熱灸・八分灸の練習	紙施灸。八分灸を練習する。
15	透熱灸・八分灸の練習	紙施灸。八分灸を練習する。
16	復習	試験について説明。試験内容の練習をする。
17	前期期末試験①	正しく艾炷を捻れているか、形・大きさは一定か、正しく点火出来ている か、1分間に何壮できるか等をチェックする。 10分間で紙の上に半米粒大の透熱灸が何壮施灸できるかチェックする。
18	前期期末試験②	同上
19	試験のフィードバック	試験のフィードバックをし、出来ているところ、出来ていないところを再 確認する。

20	人体施灸の流れ	紙施灸。人体施灸の流れ。自分自身に施灸。(追・再試験)
21	安全管理	人体への施灸で起こりうる過誤と対処法について確認する。
22	人体への施灸(足部)	紙施灸。足部の取穴及び施灸を行う。
23	人体への施灸(足部)	紙施灸。足部の取穴及び施灸を行う。
24	人体への施灸(下腿)	紙施灸。下腿前面の取穴及び施灸を行う。
25	人体への施灸(下腿)	紙施灸。下腿前面の取穴及び施灸を行う。
26	人体への施灸(腰部)	紙施灸。腰部の取穴及び施灸を行う。
27	人体への施灸(背部)	紙施灸。背部の取穴及び施灸を行う。
28	復習	試験について説明。試験に向けて練習する。
29	後期中間試験	人体への施灸を安全におこなえているかチェックする。
30	知熱灸	紙施灸。小指頭大の知熱灸の作り方と施灸の説明。竹筒を使い練習する。
31	隔物灸	生姜、にんにく灸など。
32	隔物灸	塩灸、みそ灸など。
33	灸頭鍼	紙施灸。灸頭鍼の説明、やり方、デモ。刺鍼練習台に練習する。
34	知熱灸	紙施灸。知熱灸を練習する。
35	復習	試験について説明。試験に向けて透熱灸・知熱灸を練習する。
36	復習	試験に向けて透熱灸・知熱灸を練習する。
37	後期期末試験①	10分間で紙の上に半米粒大の透熱灸が何枚施灸できるかチェックする。 人体への知熱灸が安全に行えるかチェックする。
38	後期期末試験②	同上
39	フィードバック	試験のフィードバック。出来ているところ、出来ていないところを再確認する。
40	復習	人体施灸の復習。(追・再試験)

【方略】 実技演習、講義(はりきゅう実技教科書・板書)

【評価方法と基準】 定期試験、出席日数、課題などを総合的に評価する。

【学生の質問への対応】 授業中・勤務時間内随時

【教科書】 東洋療法学校協会編 『はりきゅう実技(基礎編)第2版』 医道の日本社

【参考書】 東洋療法学校協会編 『はりきゅう理論』 医道の日本社

東洋療法学校協会編 『新版 経絡経穴概論』 医道の日本社

実務年数(鍼灸院) 4年

臨床はりきゅう実技Ⅷ（オムニバス）

[はり師きゅう師学科 昼夜] 1年生 (後期) 1単位 実技

専任教員 澤口真也・岩瀬 俊文

【一般目標（GIO）】基礎はりきゅう実技で習得した技術をどのようにして活かすか、様々な治療法を体験させることによって学んでいく。

【授業概要】臨床現場で活躍する臨床家が実際行っている治療法を紹介し、安全面に十分配慮しながら生徒に治療を体験させる。

【授業計画】 後期

回	項目	到達目標（授業内容）
1	アキュゾーン治療	アキュゾーン治療とは何かを学ぶ。
2	アキュゾーン治療	アキュゾーン治療とは何かを学ぶ。
3	アキュゾーン治療	実際のアキュゾーン治療について学ぶ。
4	アキュゾーン治療	実際のアキュゾーン治療について学ぶ。
5	男性不妊	男性の不妊について学ぶ。
6	男性不妊	男性の不妊について学ぶ。
7	レディース鍼灸	婦人科疾患について学ぶ。
8	レディース鍼灸	婦人科疾患について学ぶ。
9	マタニティー鍼灸	妊産婦に対する鍼灸について学ぶ。
10	マタニティー鍼灸	妊産婦に対する鍼灸について学ぶ。
11	小児鍼灸	小児鍼について学ぶ。
12	小児鍼灸	小児鍼について学ぶ。
13	スポーツ鍼灸	スポーツ傷害に対する鍼灸治療について学ぶ。
14	スポーツ鍼灸	スポーツ傷害に対する鍼灸治療について学ぶ。
15	積聚治療	積聚治療とは何かを学ぶ。
16	積聚治療	積聚治療とは何かを学ぶ。
17	不妊治療	女性の不妊治療について学ぶ。
18	不妊治療	女性の不妊治療について学ぶ。
19	期末試験	内容の理解度を評価する。
20	フィードバック	試験のフィードバックを行う。

【方略】 実技演習、講義

【評価方法と基準】 定期試験を総合して評価を行う。

【学生の質問への対応】 授業中・勤務時間内随時

【教科書】

【参考書】

実務年数（鍼灸院）18年 15年